

情報モラル指導者養成の取組 － 新たな情報モラル教育の取組 －

当センターでは平成26年度に、独立行政法人教員研修センターから委嘱を受け、特設講座「情報モラル指導者養成講座」を開設し、情報モラル指導者の養成を目的とした効果的な研修カリキュラムの開発を行った。特設講座では、研修受講者を講師としたワークショップ形式の校内研修を採り入れ、情報モラル指導者の養成とともに、学校全体で情報モラル指導を行うための基礎を築くことができた。この特設講座の成果、並びに今年度新設した小・中学校及び高校・特別支援学校の教員を対象とした「情報モラル指導者養成講座」の取組について報告する。

<検索用キーワード> 情報モラル 指導者養成 ワークショップ 校内研修
同僚 共通理解 共通認識 携帯電話 スマートフォン

総合教育センター研究指導主事
総合教育センター研究指導主事

加藤 悟(平成27年度)
井谷 直樹(平成27年度主務者)

1 はじめに

児童生徒の間にも携帯電話やスマートフォンの普及が進み、インターネットが日常的に利用されるようになっている。機器やサービス、利用内容の変化も激しく、大人が把握しきれない状況の中、児童生徒の間ではトラブルが発生している。無料通信アプリの利用によるトラブルやネットいじめ、コミュニティサイト等での被害など、生命に関わる問題も起きており、次々と起こる新たな問題や犯罪から児童生徒をどう守り、指導していくかは、どの学校でも喫緊の課題となっている。

当センターでは、これまで情報教育を専門とする教員を対象とした研修をはじめ、初任者研修や10年経験者研修等で、情報モラル指導力の向上を図るための研修を行ってきた。その一方、学校では全校や学年での集会、保護者研修会、校内研修などにおいて、専門的な知識のある外部講師からの指導を望む声が多く、当センターへの講師派遣依頼も年々増加してきた。

このような状況を踏まえ、平成26年度に特設講座「情報モラル指導者養成講座」を開設し、各校で情報モラル指導の中核となる教員を養成し、学校全体の情報モラル指導力の向上を図るための新たな研修カリキュラムの開発を行った。この成果を基に、今年度は小・中学校及び高校・特別支援学校の教員を対象とした「情報モラル指導者養成講座」を新設し、学校で中核となって情報モラルに関する指導・助言ができる教員の養成に取り組んだ。

2 特設講座「情報モラル指導者養成講座」の取組（平成26年度の取組）

(1) 取組の概要

これまでの当センターでの情報モラルに関する研修の事後アンケートを分析すると、センターでの研修を学校の先生方へ伝える校内研修を企画・運営することに不安があること、そのまま使える校内研修教材の提供と全ての教員への研修機会の要望があることが分かった。そこで、これらのことを踏まえ、特設講座の研修目的を次のように設定した。

ア 各学校の情報モラル指導の中核となり、同僚教員へ情報モラル指導のポイントを指導・助言

できる人材を育成する。

イ 校内研修の運営方法を学び、各学校で校内研修を実施することにより、学校の情報モラル指導についての意識向上を図る。

この特設講座の研修では、ワークショップ形式による演習を採り入れ、受講者が演習を体験した後、自らが講師となってワークショップ形式による校内研修を実施し、情報モラル指導者としての意識を高め、実践力を養うことができるようにした。

(2) 受講者について

特設講座の受講希望者を県内の県立学校から募り、受講希望のあった40校（高等学校32校、特別支援学校8校）からの40名を受講者とした。

(3) 特設講座の日程と内容

特設講座による研修は全4日間で行い、第1、2、4日目の3日間を集合研修、第3日目を特設講座受講者所属校での個別研修とした。個別研修は第2日目の集合研修後から第4日目の集合研修までの間に実施することとした。

集合研修では、情報モラル指導に必要とされる基礎知識の習得やワークショップ形式で行う情報モラル研修の体験や演習、また、センター所員だけではなく、大学教員等からの講演会を行って、専門的な立場からの示唆と最新の情報を提供し、研修全体の妥当性を確保するようにした。

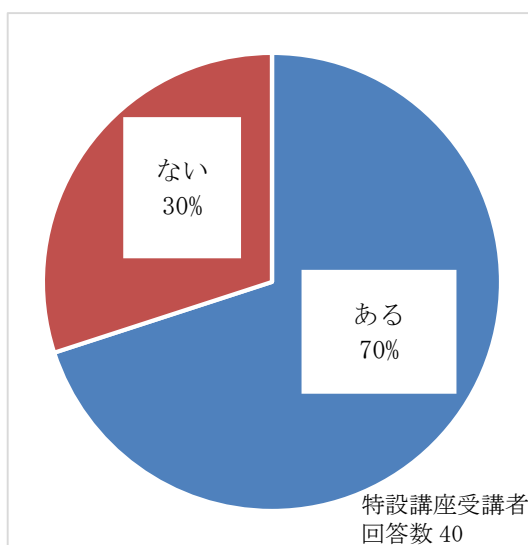
(4) 特設講座「情報モラル指導者養成講座」の成果

ア 追跡アンケートによる研修評価（3か月後）

特設講座の終了3か月後に受講者に対して追跡アンケートを実施した。

アンケート項目の「特設講座をきっかけに、受講者自身で情報モラルに関して新たに取り組んだことはありますか」という項目では、70%が「ある」と答えている（資料1）。また、「校内研修をきっかけに学校全体で情報モラルに関して新たに取り組んだことはありますか」という項目では、32%が「ある」と答えている（資料2）。特設講座の終了後3か月程度しか経過していないため、学校全体での新たな取組を行っている学校の方が少ないが、受講者の他の教員への指導や助言の機会が増えたことや、校内での情報モラルに関する話題の増加などから情報モラル教育の広がりを感じとれる。

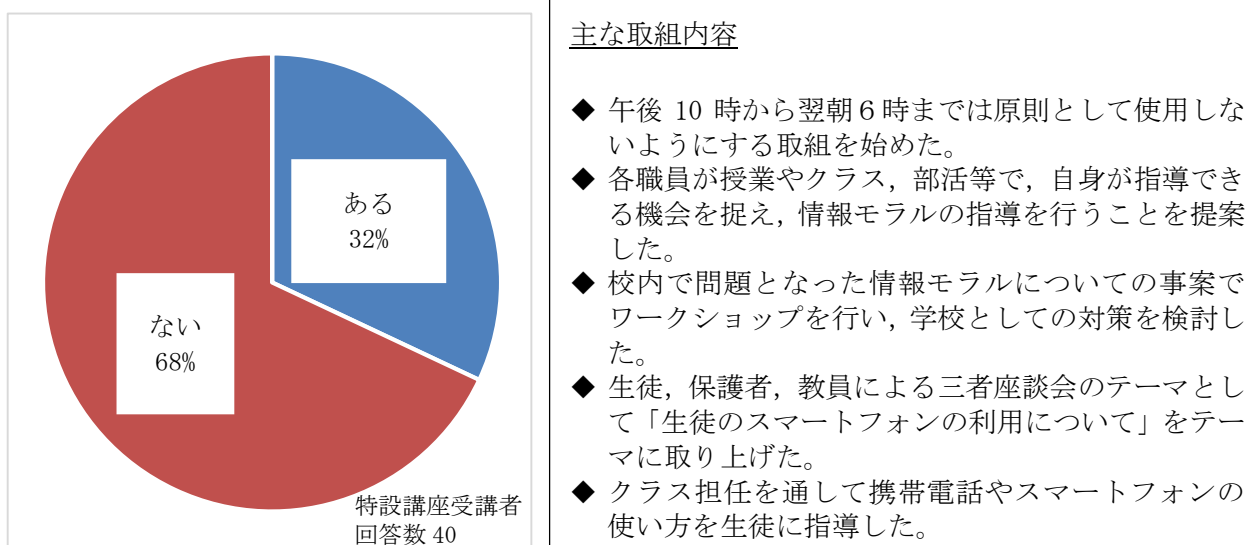
【資料1 自身で情報モラルに関して新たに取り組んだことはありますか（追跡アンケート）】



主な取組内容

- ◆ 情報セキュリティに関する情報を職員に周知し、担任を通して生徒に伝えてもらうことをした。
- ◆ 授業で情報モラルに関する事例を紹介して考えさせた。
- ◆ 授業でワークショップを行って話し合う活動を取り入れた。
- ◆ 情報モラルに関する情報を同僚と共有し、対応を協議するようになった。
- ◆ 家庭への便りで、携帯電話やスマートフォンの扱いについて記事を掲載し、家庭で話し合うことを働きかけた。

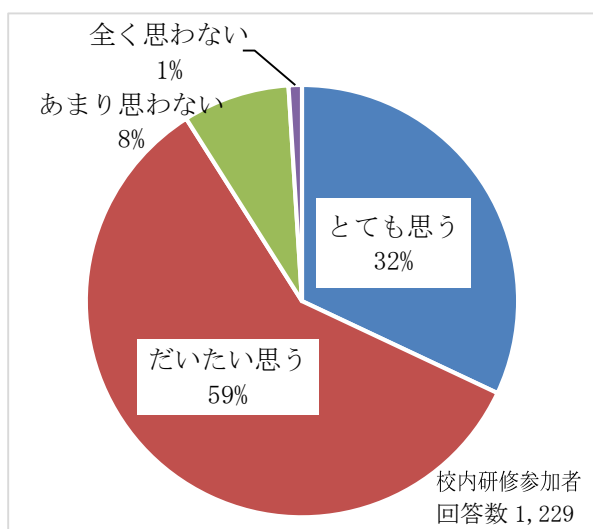
【資料2 学校全体で情報モラルに関して新たに取り組んだことはありますか（追跡アンケート）】



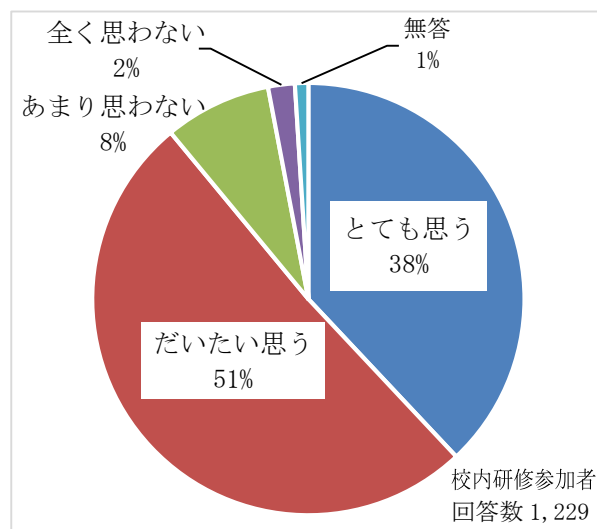
イ 特設講座「情報モラル指導者養成講座」の成果

- (ア) 共通理解・共通認識を目的としたワークショップ形式の研修は、とても評価が高かった（資料3）。
- (イ) 校内研修を実施したことで、情報モラルに関する指導の考え方や問題点、指導方法について職員間の共通理解が図られ、全校体制で取り組む意識が高まった（資料4）。
- (ウ) ワorkshop形式の演習や実践、講義が特設講座受講者の指導者としての意識の向上、自信につながった（資料5）。
- (エ) 特設講座受講者40名への取組が、1,342名の先生方へ広がり、大きな波及効果があった。

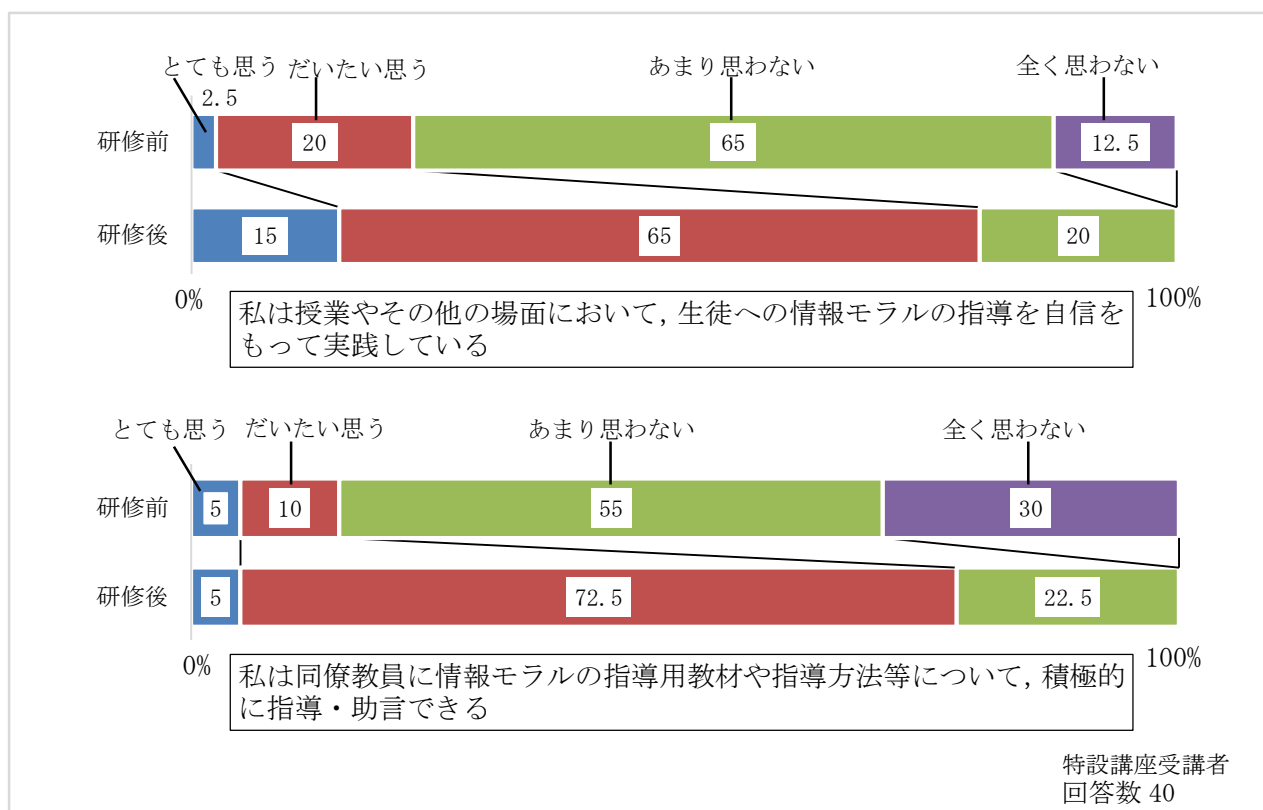
【資料3 情報モラルのワークショップで情報モラル指導の共通理解ができたと思う（校内研修アンケート）】



【資料4 校内研修で、情報モラル指導に対する意識が高まった（校内研修アンケート）】



【資料5 研修前後での特設講座受講者の意識の比較 (事前・事後アンケート)】



3 新たな情報モラル教育の取組 (平成27年度の取組)

(1) 取組の概要

平成26年度に実施した特設講座「情報モラル指導者養成講座」の成果を基に、平成27年度は「情報モラル指導者養成講座」研修を新設した。研修の目的及び内容は特設講座「情報モラル指導者養成講座」に加え、指導案作成も行い、より具体的に研修イメージをもたせやすくした。

(2) 受講者について

新設研修では対象校種を小学校(36校)、中学校(24校)、高等学校(48校)、特別支援学校(12校)に広げて実施した。各校1名ずつ120名で、小・中学校2グループ、高校・特別支援学校2グループとし、各グループ30名を基本とした。

【資料6 情報モラル指導者養成講座の内容】

(3) 研修の内容と取組

新設研修では、センターでの研修を一日で設定し、ワークショップ形式での校内研修を別日に設定した。また、センターでの研修を一日に短縮したため、特設講座の研修で行った一部の講義をeラーニングで補うようにした(資料6)。

ア センターにおける研修

(ア) ワークショップ形式で

実施する情報モラル研修の体験

センターでの研修後に受講者が所属校で実践する校内研修と同様のワークショップ形式の研修を体

<p><u>研修前</u> eラーニング「情報モラル」の視聴</p> <p><u>センターでの研修</u> 「ワークショップ形式で実施する情報モラル研修」(100分) 「情報モラル指導のポイント」(30分) 「児童生徒のインターネット利用状況の把握」(60分) 「情報モラル指導の実践～情報モラル指導案の作成」(120分)</p> <p><u>センターでの研修後</u> eラーニング「効果的なワークショップの方法」の視聴 ワークショップ形式による校内研修の実践</p>

験し、情報モラル教育について考える参加型の校内研修をイメージすることができるようにした。ここでは、校内研修参加者と同じ立場でワークショップを体験し、自らが校内研修を実践するときの参考となるように研修のはじめに予備知識のない状態で行うようにした。

(イ) 情報モラル教育に関する知識の習得

講義・実習において、情報モラル指導のポイントを学び、児童生徒のインターネット利用の現状を把握することで知識を深め、各学校や校種の実情にあった指導を心がけた。

(ウ) 情報モラル指導法についての協議

今回の新設研修より追加した研修項目である。ワークショップを通して共通理解を図った教員同士で協議を行い、情報モラル指導案や指導用教材を作成して発表し、成果物を共有するようにした。これにより、情報モラル指導を具体的にイメージさせ、授業実践の推進を図るようにした。

イ ワークショップ形式での校内研修

受講者が講師となり校内研修を実施することで、指導者としての意識と指導力の向上をねらいとした。また、教員同士の共通理解を図り、全校体制での情報モラル教育につなげることを目指した。

ウ eラーニング

センターでの研修までにeラーニング講座の「情報モラル」を視聴し、情報モラルについての基礎的な内容を学んだ後に研修に参加できるようにした。研修後には「効果的なワークショップの方法」を視聴し、研修で体験したワークショップの理論を学び、理解を深めることができるようにした。

(4) ワークショップの方法

ア 研修時間と教材

ワークショップ形式による研修は90分での実施を基本としたが、校内研修で実施する場合は60分でも実施できるように工夫した。また、校内研修実施の際に必要な、ワークショップの運営テキスト、配付資料、プレゼンテーションスライド等はセンターで作成し、編集可能なかたちで研修受講者に配付した。

イ 研修の進め方（資料7）

(ア) 事前情報の提供

参加者全員に情報モラルに関する事前情報の提供を行う。これはこの後の事例資料を協議する上で、事例の内容を理解するために知っておきたい知識を簡単に説明し、普段携帯電話やスマートフォン、インターネットをあまり利用しない教員が、事例の内容についてイメージしやすくなるのがねらいである。次に参加者の緊張をほぐし、リラックスした雰囲気での研修に取り組むことができるようにアイスブレイクを行う。

(イ) トラブル事例を読む

あらかじめ用意した数種類の事例をグループごとに種類を替えて人数分配付し、各自で事例を読む。

(ウ) グループでの協議

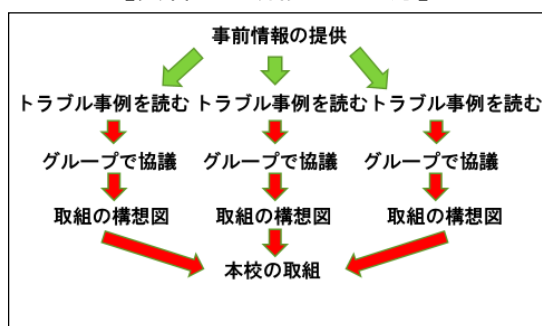
読んだ事例についての問題点を洗い出し、グループで協議をして問題点を内容ごとにまとめる。次に、まとめた問題点ごとに望まれる変容を各自が考えて発表し、協議を行う。

(エ) 取組の構想図

グループ内で発表された望まれる変容を内容ごとにまとめ、その変容を促すためにできる取組を協議して、その構想図のポスターを作成する。

(オ) 本校の取組

【資料7 研修の進め方】



作成した取組の構想図でポスターセッションを行い、各グループの考えを全体で共有する。ポスターセッション後に校内研修のまとめを行い、再度この研修の目的を確認する。

(5) 校内研修の実施について

校内研修はセンターでの研修後の7月1日から11月30日までの間で各学校が設定をし、研修受講者を講師として実践することとした。

実際には、校内研修を指定期日内に120校中73校が実施し、1,815名の教員が校内研修に参加した(資料8)。この中にはワークショップではなく、研究授業として校内研修を実施した高校が1校(5名)と前年度の特設講座でワークショップ形式の校内研修を実施したため、少人数のグループで情報モラル指導案を作成する研修を実施した高校が1校(32名)、同様の理由

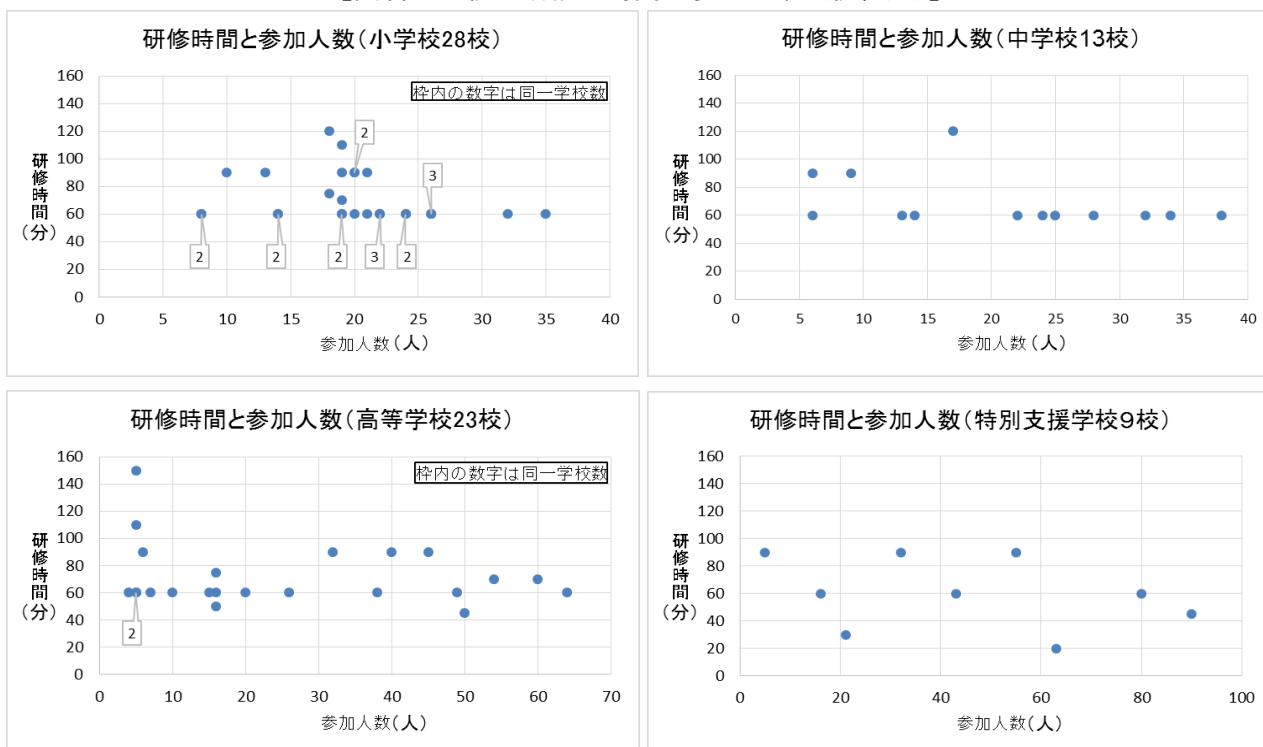
【資料8 校内研修実施校数と参加人数】

指定期日(7月1日から11月30日)		
校種と研修参加校数	校内研修実施校	参加人数
小学校(36校)	28校	559名
中学校(24校)	13校	268名
高等学校(48校)	23校	593名
特別支援学校(12校)	9校	405名

で資料を配付しての研修を行った特別支援学校が2校(84名)含まれる。この他、表の数値には含まれていない指定期日外での校内研修の実施が小学校で2校(51名)、中学校で1校(4名)、高校で1校(38名)、校内研修ではなく、授業でワークショップを実施した高校が1校(生徒35名)あった。

ワークショップでの研修は90分での研修が基本であったが、学校で実施された校内研修の多くが60分以内での実施であった(資料9)。

【資料9 校内研修の時間と参加人数(校種別)】



(6) 取組の評価(アンケート及び校内研修実践報告書より)

ア 研修実施後のアンケート

センターでの研修実施後に行ったアンケートでは、研修の満足度について、回答のあった受講者全員から「満足できた」「ほぼ満足できた」との回答が得られた(資料10)。

ワークショップ形式での情報モラル研修については、ほぼ全員の受講者から「よい」「ほぼよい」との回答が得られ、研修受講者の評価が高かった（資料11）。事例を基に少人数でワークショップを行い、意見を出し合いながら、取組の構想図のポスターを作成することで情報モラル指導に対する意識が高まったことや、ワークショップを通してグループの考えが深まり、視覚化できることが理由として挙げられていた。また、講義によって聞くだけの研修ではなく、実際に体験し、自分たちで考え、発言しながら協議を進めていくことで、ワークショップの有効性が分かったという意見もあった。

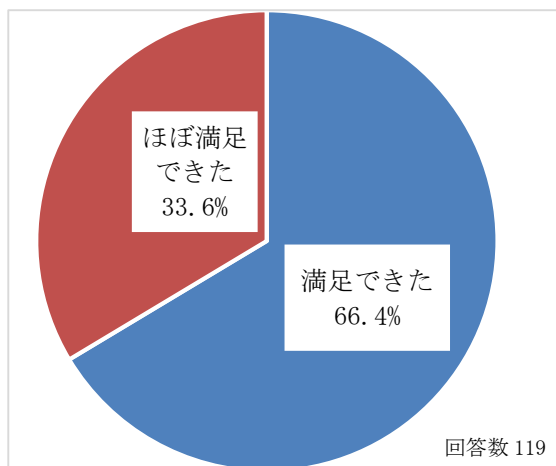
今回の新設研修では、情報モラル指導の実践を考える協議において、ワークショップで共通理解を図った研修員同士（3名もしくは2名）でグループを作り、実際の授業場面を想定した情報モラル指導案を作成する研修を採り入れた。この研修には、約98%の方から「よい」「ほぼよい」との回答が得られた（資料12）。実際に一時間の指導案を考えることで中身の濃い話し合いができたこと、グループで指導案を作成することでいろいろな考えに触れることができ、作り上げた達成感もあったということが理由として挙げられていた。また、作成した指導案を発表し、受講者で共有をしたことで、各グループの取組を見ることができ、教材の捉え方や構想の仕方など、いろいろなアプローチを知ることができたことや、情報を共有することでさまざまなアイデアを知ることができ、今後の指導の際に活用できるのでよかった、ということが挙げられていた。120分の時間の中で指導案の作成から発表まで行ったこともあり、時間的な余裕がなかったが、ワークショップで共通認識を図った受講者とグループで指導案を作成したこともあり、協議が深まり、具体的に授業をイメージしながら協力して作成しているグループが多かった。グループの中にはすでに情報モラル指導に取り組んでいる受講者もいて、これまでの経験や知識を他の受講者に伝える光景も見られた。

イ 校内研修実践報告書より

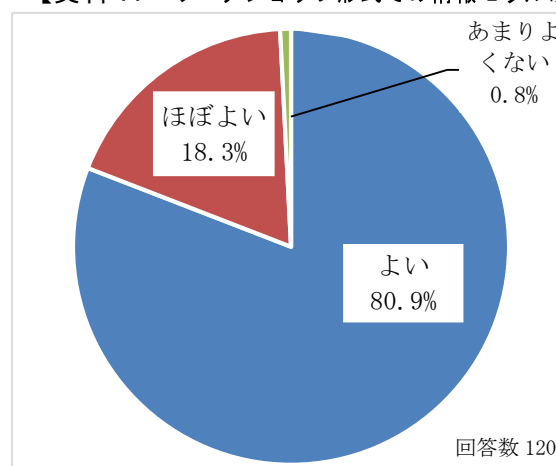
(ア) 校内研修について（校内研修実践者による評価）

受講者から報告された校内研修実践報告書より、参加者への研修効果とワークショップ形式の研修効果を「研修による参加者の変容の度合い」「ワークショップ形式の研修効果の度合い」の項目で見つめる。「研修による参加者の変容の度合い」は、比較的多くの学校で高い値となっている（資料13）。そ

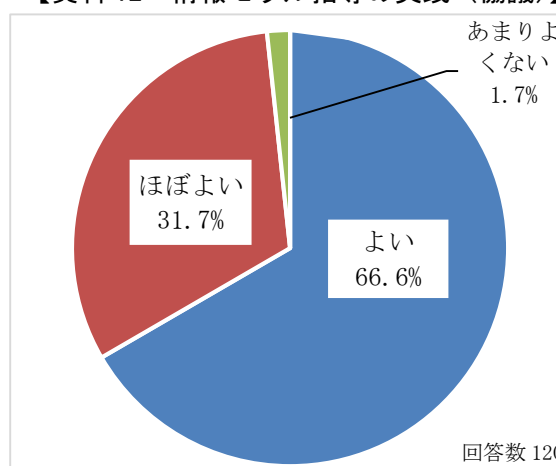
【資料10 研修に対する満足度】



【資料11 ワークショップ形式での情報モラル研修】



【資料12 情報モラル指導の実践（協議）】



の理由として、校内研修によって情報モラル教育への意識が高まったことや職員全体で取り組むべきだという認識が広がったこと、今後の生徒への指導に生か

【資料13 研修による参加者の変容の度合い（1～4の4段階で評価）】

変容の度合い	小学校 (28校)	中学校 (13校)	高等学校 (21校)	特別支援学校 (7校)
高 ↑	4	6校	3校	7校
	3	20校 (3.5含む)	9校 (3.25含む)	9校
↓ 低	2	2校	1校	4校
	1	0校	0校	0校

ワークショップ以外の研修を除く

たいと校内の教員の実践意欲が高まったことが理由として挙げられていた。変容の度合いの値で2となっている学校が8校あるが、その主な理由は、もともと情報モラル指導の重要性を理解している意識の高い参加者が多かったことや情報モラル指導を実践し、全体での取組を積極的に行うまでには至っていないという理由であった。

【資料14 ワークショップ形式の研修効果の度合い（1～4の4段階で評価）】

研修効果の度合い	小学校 (28校)	中学校 (13校)	高等学校 (21校)	特別支援学校 (7校)
高 ↑	4	21校	4校	9校
	3	6校	7校	10校
↓ 低	2	0校	2校 (2.75含む)	2校
	1	1校	0校	0校

ワークショップ以外の研修を除く

ワークショップ形式の研修効果の度合いについては、小学校で高い値をつけた校数が多く、他の校種でも多くの学校で3以上をつけている

(資料14)。理由として、校内研修参加者が主体的に活動できることや、事例の内容を自分たちの問題として捉え、具体的な指導内容を考えることができること、さまざまな意見を出し合い、知識を共有することで考えや理解が深まり、共通理解を図ることができたことが挙げられていた。2以下の値をつけている学校が6校あるが、その理由は講師である受講者自身が準備不足であったことやたくさんの問題点があり議論を深めることができなかつたこと、特設講座に続き2年連続の研修で参加者が限られたことや時間短縮をしたためワークショップの効果が得られなかつたことが挙げられていた。

受講者の校内研修実践報告書を見ると、受講者が校内研修の実践を通して情報モラル指導者としての自覚が芽生えていることが分かった。配付した教材やプレゼンテーション資料を自校の教員に合わせてアレンジしたり、校内研修参加者の研修時の様子や感想、自身の反省を分析し、今後につなげていこうとしたりしている。今回のセンターでの研修と校内研修の実践が、情報モラル指導者の養成につながっていると考える。

(イ) 校内研修参加者の校内研修の感想

校内研修参加者の校内研修後の感想をみると、参加した多くの教員の情報モラルに対する意識が高まったことが感じられる。また、講義形式ではなくワークショップ形式の研修であったことに対する肯定的な感想が多く、互いに意見を出し合って協議する活動が、教員間の共通理解を図り、情報モラルに関する考えや理解を深めることにつながったからだと考えられる。この他にも以下のような感想が見られた(資料15)。

【資料 15 校内研修参加者の感想】

- ・ワークショップを通して一人一人が問題意識をもつことができた。
- ・お互いに考えを出し合って今後の情報モラル指導に対する共通理解を図ることができた。
- ・漠然としていた情報モラルの指導が、研修後は授業の方向性が見えた感じがする。
- ・今回の研修で何が問題でどう対策をしたらよいかを具体的に考えることができたので、今後ネットモラルについての指導がしやすくなった。
- ・校内で研修を受けられた点がよかった。
- ・先生方と共通理解を図ることで、子どもたちへの指導に自信をもつことができた。
- ・グループで協力して考えることで問題について整理され、私たちが何をすべきかはっきりとみることができた。

4 取組のまとめと今後の課題

(1) 研修の対象を小・中学校まで広げて実施した

携帯電話やスマートフォン、インターネットの利用が低年齢化し、小学生の間でもこれらに関連したトラブルが起きている。トラブルを未然に防ぎ、児童生徒に情報モラルを身に付けさせるためには体系的な指導が必要になる。今回の研修での取組が、小・中学校での情報モラル指導を一步前進させることにつながったと感じている。

(2) 校内研修参加者の共通認識・共通理解を図ることができた

共通理解・共通認識が図られることで、学校や教員全体としての取組が進めやすくなる。情報モラル指導を誰もが行うことで、児童生徒の情報モラルについての意識を高めることになる。

(3) 「情報モラル指導者養成講座」受講者の情報モラル指導者としての意識を高めた

2日に満たない研修ではあるが、今回の研修での取組が受講者の情報モラル指導者としての自覚と自信を意識付けたと感じている。今後、学校や地域での情報モラル指導の中核となることを期待したい。

(4) 研修講座120名への取組が、校内研修を行ったことで1,815人の教員へ広がった

特設講座と比較すれば校内研修参加者数は少ないが、この研修の取組が広がった効果は大きい。

今後はより多くの学校で校内研修が実施され、それにより高まった情報モラル指導に対する意識を具体的な日常の指導や各教科での指導に生かしていただくことを期待する。また、センターとしては、さらなる研修内容の充実と改善を行っていきたい。

※参考

「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム報告書」 (愛知県総合教育センター 2015)